

# 高知大学におけるキャリア教育体系化の取組（2）

— 「学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施要項」の策定を中心に —

- 森田佐知子（学生総合支援センター 特任准教授）
- 岩崎 貢三（理事（教育担当）、副学長）
- 徳弘 靖人（学務部学生支援課 就職室長）

キーワード：キャリア教育、キャリア形成支援、インターンシップ、職業統合的学習、学士課程教育

もと、学生総合支援センターキャリア形成支援ユニット（以下、キャリア形成支援ユニット）を中心に、高知大学におけるキャリア教育体系の現状を整理し、その改善・充実に向けた検討を開始することとした（森田・岩崎・徳弘，2019）。高知大学ではこれまで、準正課活動という特徴的な独自のキャリア形成支援と正課外における就職活動支援を充実させていた一方で、正課科目におけるキャリア教育は、初年次科目及び共通

## はじめに

本稿は、2018年度から開始した、「高知大学における学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施」における2019年度の実施内容を報告するものである。

高知大学では、2018年度より、理事（教育担当）の

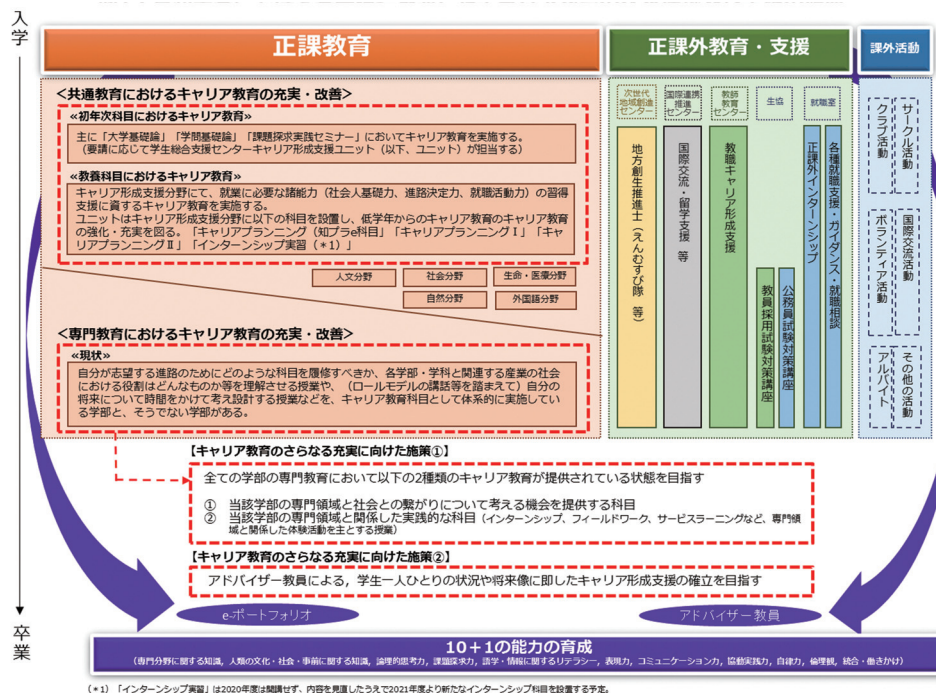


図1：高知大学における学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施の概要

教育科目では取り入れられていたものの、専門科目におけるキャリア教育は各学部委ねられている現状であった。そこで、大学として、学士課程全体を通じて体系的なキャリア教育を充実、改善させていくために本事業が開始された。その概要を図1に示す。

初年度である2018年度は、高知大学「平成30年度教育研究活性化事業（教育改善・修学支援）」に採択され（採択課題「4年間を通じたキャリア教育体系の改善・充実に向けた取組」）、2つの取組を実施した。1つは共通教育におけるキャリア教育の拡充とその教育効果の測定、2つ目はキャリア教育や職業統合的学習<sup>1</sup>の先進国であるオーストラリアの高等教育機関における学内組織体制を調査し、その調査結果をもとに高知大学における学内検討体制・連携体制を検討することであった<sup>2</sup>。

2019年度は、共通教育におけるキャリア教育の充実を継続しつつ、専門教育におけるキャリア教育の充実・改善の仕組みを構築することを目的とした。本稿ではこの2019年度の取組について、①共通教育（初年次科目）、②共通教育（教養科目）、③専門科目、の3つに分けて報告し、最後に今後の展望を述べる。

## 1. 共通教育（初年次科目）におけるキャリア教育の充実

高知大学では、「学びの転換」、「基礎的スキルの修得」、「学問への動機付け」、「キャリア形成支援」を柱に、入学後すぐに学びの転換を図り、自分で考え行動できる力、他者とコミュニケーションできる力、表現できる力を養成するために初年次科目を設置している。初年次科目として「大学基礎論」、「学問基礎論」、「課題探求実践セミナー」、「大学英語入門」、「英会話」、「情報処理」の6科目が設置されているが、このなかで大学基礎論は特に、「卒業時に自分がどうなっていたいか、どのような能力をつけるべきかを考える」ことが授業目標の一つに掲げられている。

初年次科目の授業内容は原則として各学部委ねられているが、2018年度より、授業担当教員からの希望があれば「大学基礎論」（もしくは「学問基礎論」、「課題探求実践セミナー」）の1～2コマを「キャリアデザイン入門」としてキャリア形成支援ユニットの専任教員が担当することとした。

2018年度と2019年度における、キャリア形成支援ユニットによる「キャリアデザイン入門」の提供状況を表1に示す。

表1：初年次科目における「キャリアデザイン入門」の提供状況

学部名	2018年度			2019年度		
	対象学科・コース	実施科目名	実施日	対象学科・コース	実施科目名	実施日
人文社会科学部				社会科学コース	大学基礎論	4月19日（金）3限 4月23日（火）3限
				国際社会コース	課題探求実践セミナー	5月15日（水）2限
地域協働学部	全学科・コース	大学基礎論	4月12日（木）4限 7月12日（木）4限			
理工学部	全学科・コース	大学基礎論	5月2日（水）1限	全学科・コース	大学基礎論	4月24日（水）1限
農林海洋科学部	農林資源環境科学科	学問基礎論	11月14日（水）3限	農林資源環境科学科	学問基礎論	11月27日（水）3限
土佐さきがけプログラム	全学科・コース	大学基礎論	4月19日（木）1限	全学科・コース	大学基礎論	4月18日（木）1限
			7月19日（木）1限			7月25日（木）1限

<sup>1</sup> 吉本・椿（2016）によれば、職業統合的学習（Work Integrated Learning: WIL）とは各専門分野の学問体系に基づく大学教育のカリキュラムと職業実践とを統合させた学習で、多様な形態のインターンシップや、インターンシップと同等の効果を発揮する多様な取組（ワークショップやPBL、地域フィールドワーク、共同研究プロジェクト、特定の資格取得を目的として実施する実習、サービス・ラーニングなど）が含まれる。

<sup>2</sup> 2018年度の取組詳細は、森田・岩崎・徳弘（2019）を参照されたい。

初年次科目におけるキャリア教育はそれぞれの学部で1～2コマのみの実施であるため教育効果測定には至っていないが、理工学部、農林海洋科学部、土佐さきがけプログラム、については、2018年度、2019年度と連続して依頼を受け、キャリア教育を実施している。

また2018年度は実施の無かった人文社会科学部についても、2019年度は3つのコースのうち、2つのコースで実施することとなった。地域協働学部は2019年度は依頼がなかったが、2020年度は学問基礎論において実施する方向で調整中である。このように、目的学部である教育学部と医学部を除き、初年次科目におけるキャリア教育の提供が定着しつつある。

## 2. 共通教育（教養科目）におけるキャリア教育の充実

### 2-1. 「キャリアプランニングⅡ」の開講

高知大学の教養科目には6つの分野があり、その中の一つに、「キャリア形成支援」分野が設定されている。キャリア形成支援分野では2020年度現在で30の科目が開講されているが、キャリア形成支援ユニットでは、このキャリア形成支援分野のさらなる充実のため、2018年度に「キャリアプランニングⅠ（2学期、月曜4限、2単位）」を開講、さらに2019年度から「キャリアプランニングⅡ（1学期、月曜3限、2単位）」を開講した。キャリアプランニングⅠが主に1年生を中心に「社会と自分を知る」ことを主たる目的にしているのに対して、キャリアプランニングⅡは主に2、3年生を中心に「多様な働き方とコミュニケーションの取り方を知る」ことを主たるテーマとして、以下の3つを授業目標とした。

1. キャリアと業界・職業に関する知識の広げ方を理解する。
2. 業界研究の方法と現代社会における多様な働き方を理解する。
3. 社会に出てからのコミュニケーションの取り方を理解し、自らの強みや将来像を他者に伝える技術を身につける。

2019年度は開講初年度であったが、2、3年生を中心に88名が履修し、学生のキャリア形成における実践的なスキル習得への関心の高さがうかがえた。履修学生の学年の内訳は、1年生11名、2年生57名、3年生12名、4年生8名であった。学部の内訳は、医学部2名、人文学部2名、人文社会科学部33名、理工学部25

名、農林海洋科学部3名、地域協働学部23名であった。

本授業は、前半部分は授業目標の1と2に対応する内容として、幅広い業界に関する知識の身につけ方を学ぶ回（第2回～第5回）と、多様な働き方を学ぶ回（第6回～第9回）を設けた。後半は授業目標3に対応し、自分の強みを文章や口頭で他者につたえる際の注意点等を説明するとともに、実際の就職活動で使うエントリーシートに記入したり、面接体験を通じて実践力を身につける内容とした。15回の授業内容の詳細を表2に示す。

表2：2019キャリアプランニングⅡ授業内容

1	オリエンテーション、エントリーシートの記入
2	企業・組織の人事戦略と個人のキャリア キャリアと職業に関する知識の広げ方
3	業界研究Ⅰ：業界・職種研究 (講師：株式会社マイナビ)
4	業界研究Ⅱ：BtoB企業の調べ方 (講師：一般社団法人 日本船用工業会)
5	業界研究Ⅲ：適職診断の使い方 (講師：株式会社マイナビ)
6	働き方研究Ⅰ：民間企業におけるキャリア形成 (講師：全日本空輸株式会社)
7	働き方研究Ⅱ：公務員としてのキャリア形成 (講師：岡山県庁)
8	働き方研究Ⅲ：起業とキャリア形成
9	多様な働き方についての振り返り（ワールド・カフェ）
10	社会に出てからのコミュニケーションの取り方 自分のことを伝える技術Ⅰ（エントリーシート）
11	社会に出てからのコミュニケーションの取り方 自分のことを伝える技術Ⅱ（講義）
12	社会に出てからのコミュニケーションの取り方 自分のことを伝える技術Ⅲ（面接体験）
13	4年生による就職活動体験談報告会
14	卒業後の生涯学習とキャリアチェンジ
15	授業のまとめと質疑応答、アンケート

実際の授業風景を図2～図3に示す。



図2：4年生による就職活動体験談報告会の様子



図3：学生同士のディスカッションの様子

## 2-2. キャリアプランニングⅡの満足度と教育効果

「キャリアプランニングⅡ」に対する満足度と教育効果の検証については、学生に対するアンケート調査と学生によるセルフアセスメントによって実施した。

まず授業に対する満足度調査は、「とても満足」37.3%、「満足」61.3%、合わせて98.6%となり、履修学生から高い評価を得ることができた。2018年度に開講した「キャリアプランニングⅠ」に続き、教養科目において学生のニーズに対応したキャリア教育を提供することができたことは本事業の大きな成果であると考ええる。

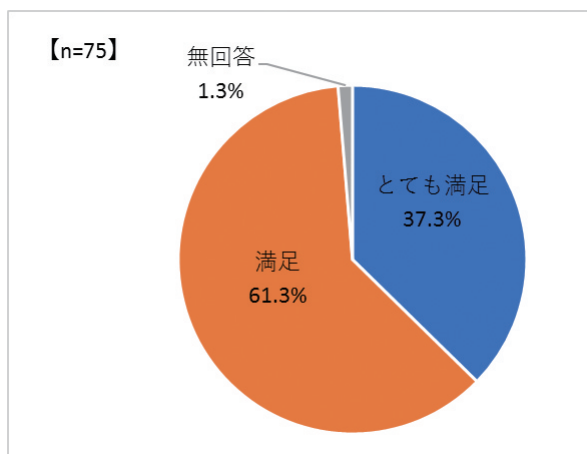


図4：キャリアプランニングⅡに対する満足度

次に本授業の教育効果について述べる。本授業の教育効果を測定するため、到達目標としていた3つの項目について学生によるセルフアセスメントを実施した。その結果を表3に示す。

表3：学生によるセルフアセスメント結果

評価項目	とてもそう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない
1. キャリアと業界・職業に関する知識の広げ方を理解しているか	46.7%	52.0%	0.0%	1.3%
2. 業界研究の方法と現代社会における多様な働き方を理解しているか	48.0%	52.0%	0.0%	0.0%
3. 社会に出てからのコミュニケーションの取り方を理解し、自らの強みや将来像を他者に伝える技術を身につけているか	25.3%	62.7%	10.7%	1.3%

「1. キャリアと業界・職業に関する知識の広げ方を理解しているか」に対するセルフアセスメントは「とてもそう思う」46.7%と「そう思う」52.0%、合わせて98.7%、「2. 業界研究の方法と現代社会における多様な働き方を理解しているか」に対するセルフアセスメントは「とてもそう思う」48.0%と「そう思う」52.0%、合わせて100.0%と非常に高い得点となった

が、一方で、「3. 社会に出てからのコミュニケーションの取り方を理解し、自らの強みや将来像を他者に伝える技術を身につけているか」については、「とてもそう思う」と「そう思う」合わせて88.0%と、他の2つと比較してやや低い得点となった。これはおそらく、「3. 社会に出てからのコミュニケーションの取り方を理解し、自らの強みや将来像を他者に伝える技術を身につけているか」については、学生が授業の中で実際に自分の特徴や強みを文章で書いたり、面接体験で実際に他者に伝える経験をすることで、思っていたよりもそれが難しく、改善が必要だと認識したことが原因だと考えられる。

またキャリアプランニングを行う上で最も参考になった内容としては「第5回 業界研究Ⅲ：適職診断の使い方」とした学生が17名、次いで「第12回 社会に出てからのコミュニケーションの取り方、自分のことを伝える技術（面接体験）」16名、「第6回 働き方研究Ⅰ：民間企業におけるキャリア形成（講師：全日本空輸株式会社）」11名となった。このことから、学生は自らの適職を見つけること、口頭で自らの特徴や強みを他者に伝える実践を行うこと、民間企業における人材育成や採用選考について知ること、へのニーズ・満足度が高いことが分かる。

### 2-3. 「キャリアプランニングⅠ」及び「インターンシップ実習」の継続実施

2018年度に新規開講した「キャリアプランニングⅠ<sup>3</sup>」と「インターンシップ実習」について、2019年度も継続して開講した。

「キャリアプランニングⅠ」については、1、2年生を中心に、昨年度の81名とほぼ同数の80名が履修し、前年度同様、「社会と自分を知る」をテーマに授業を実施した。社会を知る、の部分では、以下の通り多彩なゲスト講師を招聘し、学生に対して専門知識を教授していただいた。

- 11月7日（木）「ICTやAIの進歩とキャリア」（講師：株式会社野村総合研究所 コーポレートイノベーションコンサルティング部 ソリューションプリンシパル 安岡寛道氏）
- 11月11日（月）「ワーク・ライフ・バランスとキャリア」（講師：内閣府男女共同参画局推進課 課長補佐 山崎希美氏）
- 11月18日（月）「金融リテラシーとライフデザイン」（講師：日本銀行高知支店長 奥野聡雄氏）
- 11月25日（月）「グローバル化とキャリア」（講師：広島大学グローバルキャリアデザインセンター副センター長 三須敏幸教授）
- 12月2日（月）「人生100年時代における社会人基礎力」（講師：経済産業省 田岡一樹氏）

また2019年度は、学生が、次の授業のテーマに関する考えをまとめた上で授業に臨めるよう、毎回の授業で予習課題を設定した。また4年生による就職活動体験談報告会や、自己分析のワークを多数取り入れた。その結果、授業に対する総合的な満足度は「とても満足」44.4%、「満足」55.6%<sup>4</sup>と、2018年度の「とても満足」30.9%、「満足」66.2%、「満足でない」2.9%を上回る結果となった。

「インターンシップ実習」に関しても、2018年度同様、「企業や地域で社会を体験する」機会を提供することを目的として授業を実施した。

履修希望者にはまず履修説明会を実施し、履修における注意点や今後の流れを説明した。また実習先での実習以外に、以下の内容のセミナー、指導を実施した。

- 6月18日（火）インターンシップマッチングセミナー（物部キャンパス）
- 6月19日（水）インターンシップマッチングセミナー（朝倉キャンパス）
- 6月20日（木）インターンシップマッチングセミナー（朝倉キャンパス）
- 6月21日（金）インターンシップマッチングセミナー（朝倉キャンパス、高知県内企業）

<sup>3</sup> 2018年度新規開講時は「キャリアデザインⅠ」という名称であったが、理工学部の専門科目にて同じ名称の科目があったため、2019年度より「キャリアプランニングⅠ」と名称変更した。

<sup>4</sup> 授業後アンケート結果より（回答者数77名）

- 7月20日（土）事前指導
- 10月5日（土）事後指導①
- 10月24日（木）事後指導②
- 10月30日（水）事後指導③

インターンシップ実習に関しては、2019年度の履修者数が14名にとどまり、2018年度の39名から大きく減少した。そこで、履修学生に対してアンケート調査を行い、改善点などを質問したところ、提出書類などが分かりにくい、集中講義であるためマッチングセミナーや事前、事後指導など日程的に参加が難しいといった意見が寄せられた。

また例年、履修説明会や事前指導に参加していても、実習先を見つけることができず履修をあきらめる学生も多く存在していた。

「インターンシップ実習」は教養科目であるためその履修者は低学年である1、2年生が多いと想定される。しかし、低学年の学生は、インターンシップに漠然とした関心はあるものの、卒業後の進路が明確化していないため、実習を決定することが難しいケースがある可能性がある。そこで、2020年度は「インターンシップ実習」を開講せず、学生へのアンケート調査等を行い、教養教育におけるインターンシップ科目のあり方を検討し内容を見直した上で、2021年度より新たなインターンシップ科目を設置することとした。

### 3. 専門教育におけるキャリア教育の充実

本事業において、最も力を入れて取り組んでいるのが専門教育におけるキャリア教育の充実である。大学設置基準改正時の趣旨にも、「大学は、生涯を通じた持続的な就業力の育成を目指し、教育課程の内外を通じて社会的・職業的自立に向けた指導等に取り組むことが必要であり、そのための体制を整えるもの」とされている。キャリア教育の第一人者の一人である寺田盛紀氏もその著書（寺田，2014）において以下のように記載している。

“大学教育課程の大半（約3分の2以上）が専門課程であり、そこでのキャリア教育の組み込み

(infusion)を抜きにした教育は教養教育とならぶ、3本目の部分的な柱か、大学設置基準改正以前の「就職支援」「厚生指導」の支援で終わらざるを得ない”（寺田，2014 p.153）

上記のようなことは、伊藤（2008）や日本キャリア教育学会（2008）においても指摘されている。日本キャリア教育学会（2008）は、大学におけるキャリア教育の実践ではまず、①学問的な体系の構築、②専門教育（あるいは高等教育）としての質、が問われると指摘している。本学においてもこの2点を念頭に、専門教育におけるキャリア教育の充実を進めていった。

#### 3-1. 大学での活動と将来のキャリアに関するアンケート調査

専門科目におけるキャリア教育の充実・改善のため、高知大学では2018年10月に学士課程運営委員会に「キャリア教育検討委員会」の設置を提案し、承認を受けた。キャリア教育検討委員会は、委員長をキャリア形成支援ユニット長とし、委員は、各学部と共通教育、大学教育創造センターから1名ずつ選出した（選出は各部局にて実施）。

第1回キャリア教育検討委員会は2018年12月12日に開催した。第1回の委員会にて、委員に対して、各学部の専門教育におけるキャリア教育拡充の検討を依頼したが、各委員が検討を行うに当たり、学生が、それぞれの学部で実施されているキャリア教育についてどのように認識、理解しているのかの把握が十分でないことが明らかとなった。そこでキャリア形成支援ユニットは、各学部の専門教育の中で、学生の特性やニーズに沿ったキャリア教育を検討・実施する基礎資料とすることを目的として、4年生を対象とした「大学での活動と将来のキャリアに関するアンケート調査」を実施した<sup>5</sup>。アンケート調査の概要は以下の通りである。

- 実施時期：2019年4月

<sup>5</sup> 本アンケートの質問紙は、本文最後に資料として添付している。

- 実施場所：高知大学 朝倉キャンパス
  - 実施方法：紙によるアンケート調査（健康診断会場にて、健康診断実施後の学生に口頭で説明の上、調査票を配布・回収した）
  - 有効回答数：614件
- 本事業に関連するアンケート結果の概要を以下に示す。

- ① 3割近い学生が自分の将来のキャリアをじっくり考える機会を持たずに進路選択に臨んでいる：入学してから現在までに、自分の将来のキャリア（仕事や生活など）をじっくり考える機会があったか、について、71.5%が「あった」と回答したものの、28.2%が「無かった」と回答した。
- ② 多くの学生が自分の将来のキャリアを考える機会を正課教育の中で持たなかったと感じている：自分の将来のキャリアをじっくり考える機会を持った場面について、「共通教育の授業」と答えた学生が51名、「専門教育の授業」と答えた学生が131名、「授業以外」と答えた学生が285名であった。
- ③ インターンシップ参加学生の多くは、単位認定無しのインターンシップのみに参加している：46.1%の学生がインターンシップへの参加経験を持っていたが、そのうち「単位認定有のインターンシップに参加した」と回答した学生は59名、「単位認定無のインターンシップに参加した」と回答した学生が239名であった。
- ④ 7割近くの学生が自分の将来のキャリアや就職活動に不安を持っている：将来の自分のキャリアや就職に対する不安について、「とても不安がある」13.7%と「不安がある」54.4%を合わせて68.1%となった。
- ⑤ 4割近くの学生は、卒業後に自分で自分のキャリアをデザインしていく力の不足を感じている：卒業後も自分で自分のキャリアをデザインしていきける力を身につけているか、については、「とてもそう思う」7.2%と「そう思う」54.1%を合わせて61.3%にとどまる結果となった。
- ⑥ 専門分野と関連する業界や仕事について説明する

授業科目へのニーズが高い：専門教育の中であったらよかったと思う授業内容については、「自分の専門分野と関連する業界や仕事についての説明」が274名と最も多く、次いで「自分が希望する進路のためにどのような科目を履修すべきか」186名、「自分の学びを踏まえ、将来をじっくりと設計する時間」136名となった。

上記のアンケート調査を学部ごとに集計した上で、各キャリア教育検討委員には集計結果の分析を踏まえ専門教育におけるキャリア教育の充実・改善案を策定していただいた。しかし各学部で選出された委員は必ずしも正課カリキュラムを検討する学務委員もしくは教務委員ではなかったこともあり、専門教育におけるキャリア教育の充実・改善案を学部全体で議論し、決定していくことには困難な面もあった。

### 3-2. 高知大学における学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施要項の策定

上記課題を解決するため、正課科目のカリキュラム、つまり学士課程における教育内容に関する審議を行う「学士課程運営委員会<sup>6</sup>」にてキャリア教育を審議する枠組みを策定することを提案することとした。枠組みは年末から素案を作成し、年明けの2020年1月の学士課程運営委員会に提出、2020年3月に承認された。枠組みの名称は「高知大学における学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施要項(以下、本要項)」となった。

本要項は、本稿最後に資料として添付しているが、以下にその構成を説明する。

本要項は、第1の趣旨・目的を除くと、大きく4つの事項について定めている。それは、①共通教育にお

<sup>6</sup> 高知大学全学教育機構会議委員会規則によると、学士課程運営委員会では、以下の事項を審議することとなっている。

- (1) 教育課程編成に関する事項
- (2) 履修規則等の改廃に関する事項
- (3) 教育内容改善のための組織的な研修に関する事項
- (4) 履修方法及び成績評価等に関する事項
- (5) 卒業認定に関する事項
- (6) その他委員会が必要と認めた事項

けるキャリア教育の充実、②専門教育におけるキャリア教育の充実、③アドバイザー教員によるキャリア形成支援の確立、④キャリア教育実施の検証、である。以下、それぞれの項目について説明する。

#### ① 共通教育におけるキャリア教育の充実

共通教育におけるキャリア教育の充実は、初年次科目と教養科目に分かれている。初年次科目について記載された部分では、初年次科目におけるキャリア教育の主体が共通教育実施委員会及び各学部であること、そして共通教育実施委員会及び各学部は、初年次科目のうち、主に、大学基礎論、学問基礎論又は課題探求実践セミナーにおいて、学生が自らの進路やキャリアについて考えるための教育を実施することが定められている。またキャリア形成支援ユニットは各担当教員からの要請に応じて、初年次科目におけるキャリア教育の授業を行うことがある旨も記載されている。

教養科目について記載された部分では、共通教育実施委員会が、教養科目の「キャリア形成支援分野」にて、就業に必要な諸能力（社会人基礎力、進路決定力及び就職活動力）の習得支援に資するキャリア教育を実施することが定められている。加えて、キャリア形成支援ユニットは、「キャリア形成支援分野」にてキャリアプランニング等に関連する科目を設置し、低学年からのキャリア教育の強化・充実を図ることも記載されている。

#### ② 専門教育におけるキャリア教育の充実

専門科目におけるキャリア教育の充実については、各学部が、専門教育において以下のキャリア教育科目を設置し、実施することが定められている。

- (1) 当該学部の専門領域と社会との繋がりについて考える機会を提供する科目
- (2) 当該学部の専門領域と関連した実践的な科目（インターンシップ、フィールドワーク、サービスマーケティング等専門教育と関連した体験活動を主とする授業）

さらに、上記2つの授業科目は、特定のコースの学生のみが履修できるものではなく、当該学部（場合によっては学科）における学生全てに履修の機会を提供できる科目とすることも定められた。

#### ③ アドバイザー教員によるキャリア形成支援の確立

本要項は原則として、正課科目におけるキャリア教育の充実・改善を目的としているが、授業の中だけでは学生の個別の課題に対応することは難しい。また正課外支援を行っている就職室でも個別就職相談を随時受け付けているが、就職室の就職相談ですべての学生を受け付けることも難しい。そこで、アドバイザー教員によるキャリア形成支援についても定めることとした。

高知大学では、学生が大学生活を円滑に進められるように、アドバイザー教員制度を設けている。既に「高知大学アドバイザー教員に関する規則」にて、アドバイザー教員は、学生の進学・就職等についても助言を与えることが定められているが、本要項内においても、進学・就職を含めた学生一人ひとりの状況や将来像に即したキャリア形成支援を実施するよう、改めて定めた。

#### ④ キャリア教育実施の検証

本要項の最も大きな特徴は、学士課程を通じたキャリア教育の実施に関する事項だけでなく、その効果検証についても要項内に明記したことである。効果検証の手順は以下の通りに定めた。

まず、各学部は、専門教育におけるキャリア教育科目の設置・充実、及びアドバイザー教員によるキャリア形成支援についての実施計画を作成し、年度はじめに学士課程運営委員会に提出する。そして各学部は年度計画にもとづきキャリア教育を実施する。効果検証については、キャリア形成支援ユニットが各学部の協力を得て全学生に対しアンケート調査を実施することとした。効果検証の分析結果は学士課程運営委員会を通じて各学部に対してフィードバックされ、各学部はこのフィードバックの内容に基づいてキャリア教育の改善・充実を図り、その方策を学士課程運営委員会に報告することとなっている。また上記プロセス全般に渡り、キャリア形成支援ユニットは、必要に応じて各学部に対して助言及び支援を行うこととした。

こうした効果検証までを要項に組み込むことで、学士課程を通じたキャリア教育の実施・充実・改善までのPDCAサイクルを、学士課程運営委員会を中心として回せる仕組みを構築した。



## 4. 今後の展望

### 4-1. 共通教育におけるキャリア教育拡充の展望

先に述べた通り、「キャリアプランニングⅠ」「キャリアプランニングⅡ」は一定して80名前後の学生が履修しているが、「インターンシップ実習」に関しては、その履修者が減少している。2-3で述べた通り、教養教育におけるインターンシップ科目に対して学生がどのようなニーズを持っているのか、また実際にインターンシップに行く際にどのようなことが障壁になっているのかをアンケート調査から明らかにし、そのあり方を検討していく必要がある。またインターンシップや職業統合的学習の先進国であるオーストラリアのACEN (Australian Collaborative Education Network) が主催している専門家研修「Dimensions of Quality for Work-Integrated Learning (2020年3月～6月にオンライン形式で開催)」に参加するなどして、先進事例からもそのあり方を検討している。

また大学教育創造センターからの依頼もあり、2020年度2学期から、知プラe科目において、キャリアプランニングの基礎的な科目を開講することとした。地プラe科目は全てe-learningにて実施される。例年、例えば物部キャンパスの学生からは朝倉キャンパスで実施される授業科目への参加が難しい、また朝倉キャンパスの学生でも他の授業と重複しているためキャリア形成支援科目の授業を履修できない、といった声が寄せられていたが、e-learningでの開講は、こうした課題を解決し得る可能性がある。また知プラe科目

は、高知大学だけでなく、四国内の他の国立大生も受講する可能性があるため、多様な履修者同士の交流は、学生のキャリア観に新たな視点をもたらす可能性もあるだろう。

### 4-2. 専門教育におけるキャリア教育充実の展望

専門教育におけるキャリア教育は、2020年4月より「高知大学における学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施要項」の運用が始まっている。運用にあたり、キャリア形成支援ユニットでは、2020年5月18日の学士課程運営委員会にて、「令和2年度 専門教育におけるキャリア教育科目の設置・充実、及びアドバイザー教員によるキャリア形成支援についての実施計画策定の依頼」を行った。依頼にあたっては、依頼文書を提出するだけでなく、キャリア形成支援ユニット兼務教員<sup>7</sup>の協力を得て、実施計画のフォーマット、及び記入例を作成して添付した。今後は、キャリア形成支援ユニットにて学生へのアンケート調査案を作成し、学士課程運営委員会での承認を経てそれを実施、集計、分析する流れとなる。

最後に、授業担当教員からの依頼を受け、専門教育においてキャリア教育の提供を行った。2019年度に提供した授業を表4に示す。

2020年度は新たに、大学院の「理工学特論Ⅰ」においてもキャリア教育の提供を行った。今後も、専門教育におけるキャリア教育の提供や、助言、支援などを継続していく予定である。

表4：専門教育におけるキャリア教育の提供状況

学部名	科目名	学期	担当内容
土佐さきがけプログラム	多文化経営論	1	企業の人事戦略と個人のキャリア形成
理工学部	情報社会と情報倫理	2	マスメディアとグローバル化における正義と倫理
	情報と職業	2	社会が求める人材像～職業観・勤労観を考える～ 自己理解・職業理解とキャリアプランニング
土佐さきがけプログラム	国際講座Ⅰ	集中	国別講義(北欧等)

<sup>7</sup> 高知大学学生総合支援センター規則によると、兼務教員は、ユニット長及び室長の職務を助け、センターの業務を処理することとなり、兼務教員は、ユニット等の推薦に基づき、当該教員が所属する部局の長の承諾を得て、センター長が指名すると定められている。

## 謝辞

本取組に協力くださった教職員の方々、アンケート調査等に協力くださった学生の皆様に、この場を借りて御礼申し上げます。

## 引用・参考文献

伊藤彰茂（2008）キャリア形成から就職支援に至る多様なキャリア教育の実践，キャリア教育の系譜と展開，社団法人雇用問題研究会。

寺田盛紀（2014）キャリア教育論：若者のキャリアと職業観の形成，学文社。

日本キャリア教育学会（2008）キャリア教育概説，東洋館出版社。

森田佐知子・岩崎貢三・徳弘靖人（2019）高知大学におけるキャリア教育体系化の取組－共通教育におけるキャリア教育の拡充とオーストラリアの先進事例をもとにした学内検討体制の整備，高知大学教育研究論集，24，31-44。

文部科学省中央教育審議会（2011）今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について(答申)。

吉本圭一・椿明美（2016）大学教育における職業統合的学習の社会的効用－IR 枠組による「大学の学習成果と卒業生のキャリア形成に関する調査」報告書－，九州大学「高等教育と学位・資格研究会」ワーキングペーパーシリーズNo.3。

**2019年度 新4年生対象:大学での活動と将来のキャリアに関するアンケート調査**

**学部:** \_\_\_\_\_

**学籍番号:** \_\_\_\_\_

この調査は、高知大学におけるキャリア教育・就職支援の改善のために実施するものです。また、皆さんとの面談等の際に参考とすることがありますので、学籍番号の記入をお願いします。結果をまとめて調査報告書や学術論文等で発表することがありますが、その場合、個人が特定されるような記述をすることは一切ありません。ぜひ率直な意見をお聞かせください。  
高知大学 学生総合支援センターキャリア形成支援ユニット  
特任准教授 森田佐知子

**あなた自身と大学での活動について**

**問1 入学してから現在までに、あなたが最も力を入れた活動を一つ選び○を付けてください。**  
1. 学業                      2. クラブ活動                      3. サークル活動                      4. アルバイト  
5. ボランティア                      6. 留学                      7. 準正課活動                      8. その他 ( \_\_\_\_\_ )

**問2 入学してから現在までに、自分の将来のキャリア(仕事や生活など)をじっくり考える機会がありましたか?**  
1. あった (問3へ)                      2. 無かった (問4へ)

**問3 【問2で「1. あった」と答えた人のみ】それはどんな場面ですか? (複数回答可)**  
1. 共通教育の授業で (授業名: \_\_\_\_\_ )  
2. 専門教育の授業で (授業名: \_\_\_\_\_ )  
3. 授業以外で (具体的に: \_\_\_\_\_ )

**問4 インターンシップに参加したことはありますか?**  
1. ある (問5へ)                      2. ない (問6へ)

**問5 【問4で「1. ある」と答えた人のみ】参加したインターンシップ全般にお答えください。**  
5-1. 単位認定**有**のインターンシップについて  
① 参加した                      ② 参加したことがない (5-2へ)  
↓  
キャリアを考える上で → 1. とても役立つ    2. 役立つ    3. 役に立たない    4. 全く役に立たない  
就職活動において → 1. とても役立つ    2. 役立つ    3. 役に立たない    4. 全く役に立たない  
  
5-2. 単位認定**無**のインターンシップについて  
① 参加した                      ② 参加したことがない (問7へ)  
↓  
キャリアを考える上で → 1. とても役立つ    2. 役立つ    3. 役に立たない    4. 全く役に立たない  
就職活動において → 1. とても役立つ    2. 役立つ    3. 役に立たない    4. 全く役に立たない

**問6 【問4で「2. ない」と答えた人のみ】インターンシップに参加しなかった理由を教えてください。(複数回答可)**  
1. 他のことが忙しく参加できなかった  
2. メリットが分からなかった  
3. どのようにして行けばよいのか分からなかった  
4. 探したが行きたいインターンシップが見つからなかった  
5. 応募したが選考で不合格になった  
6. 参加する準備ができていないと感じた  
7. その他(具体的に: \_\_\_\_\_ )

**将来のキャリアについて**

**問7 あなたは将来、どんなふうになりたいですか? (今の希望に一番近いものに○)**  
1. 民間企業に就職する(営業・事務・技術・その他)    5. 専門職になる(税理士、弁護士など)  
2. 公務員になる(国家・県・市町村・専門職)    6. 研究者になる(大学・研究所など)  
3. 非営利組織で働く(NPO等)    7. 教員になる(小・中・高)  
4. 起業する    8. まだ全く決まっていない  
9. その他( \_\_\_\_\_ )

裏面に続きます

問8 あなたは、将来の自分のキャリアや就職について、不安はありますか？

1. とても不安がある   2. 不安がある   3. あまり不安はない   4. 全く不安はない

問9 問8の理由を具体的に記入してください。

--

問10 あなたは卒業後も、自分で自分のキャリアをデザインしていける力を身につけていますか？

1. とてもそう思う   2. そう思う   3. あまりそう思わない   4. 全くそう思わない

問11 あなたは卒業後も、自ら学び、それを仕事に活かしていける力を身につけていますか？

1. とてもそう思う   2. そう思う   3. あまりそう思わない   4. 全くそう思わない

問12 4年生になった今、専門教育の中であったらよかったと思う授業内容に○を付けてください。（複数回答可）

- 1. 自分の専門分野と関連する業界や仕事についての説明
- 2. 自分が希望する進路のためにどのような科目を履修すべきか
- 3. 大学院進学について（大学院進学者のキャリアパス、就職活動など）
- 4. 自分が学んでいる分野と関連が深い業界で働く社会人の講話  
（若手社員 ・ 中堅社員 ・ 管理職 ・ 女性 ・ 大学院卒 ・ その他（                                  ））
- 5. 自分の専門分野と関連した職業体験（インターンシップ）について
- 6. 卒業後の生涯学習やスキルアップ
- 7. 自分の学びを踏まえ、将来をじっくりと設計する時間
- 8. 自分の専門分野と関連が深い業界で求められる力やスキル、資格について
- 9. その他（    ）

**就活や将来のキャリアに関する情報収集について**

問13 就職や進学、将来のキャリアに関する情報を主に何から収集しますか？（もっともよくみる情報源一つに○）

- 1. インターネット
- 2. 書籍
- 3. 大学の授業や正課外の講座、セミナーなど
- 4. 大学の先生、保護者
- 5. 先輩や友人
- 6. その他（具体的に:    ）

問14 問13で選択した情報源からの情報について、その真偽をどう判断しますか？

- 1. 複数の情報源を調べるなど検証の上、判断している
- 2. 特に何もしていない
- 3. その他（具体的に:    ）

問15 問13で選択した情報源からの情報について、進路選択やキャリア決定に有効に活用できていますか？

1. とても活用できている   2. 活用できている   3. 活用できていない   4. 全く活用できていない

問16 問15の理由について具体的に教えてください。

--

問17 現在あなたは内々定を持っていますか？

1. 持っている（問18へ）                                  2. 持っていない（質問は以上です。ありがとうございました）

問18 現在の内々定数とそれぞれの内々定日を教えてください。

18-1. 内々定数（                          社）

18-2. 内々定日（それぞれの企業の内々定日をご記入ください）

（① 月 日,   ② 月 日,   ③ 月 日）

質問は以上です。ご協力をありがとうございました。

# 高知大学における学士課程を通じたキャリア教育の体系構築及び実施要項

令和2年3月16日

学士課程運営委員会

## 第1 趣旨・目的

社会からの人材ニーズの変化や学生の多様化に伴い、大学ではこれまで以上に、学生の社会的・職業的自立に必要な知識や態度を育成する教育（以下「キャリア教育」という。）の重要性が高まっている。また、キャリア教育は、大学設置基準（昭和31年文部省令第28号）及び「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」（平成23年1月31日 中央教育審議会答申）においても指摘される通り、その方針を明確化し、正課教育の内外を通じて体系的・総合的に推進する必要がある。さらに学生支援の視点に立てば、学生一人ひとりの状況にも留意した支援が求められる。そこで、高知大学においても、大学として学士課程を通じたキャリア教育の体系を構築し、実施することとし、本要項において必要な事項を定める。

## 第2 共通教育におけるキャリア教育の充実

### 1 初年次科目におけるキャリア教育の実施

(1) 共通教育実施委員会及び各学部は、初年次科目（主に大学基礎論、学問基礎論又は課題探求実践セミナー）において、学生が自らの進路やキャリアについて考えるための教育を実施する。

(2) 学生総合支援センターキャリア形成支援ユニット（以下「ユニット」という。）は、各担当教員からの要請に応じて、初年次科目におけるキャリア教育の授業を行う。

### 2 教養科目におけるキャリア教育の実施

(1) 共通教育実施委員会は、教養科目の「キャリア形成支援分野」にて、就業に必要な諸能力（社会人基礎力、進路決定力及び就職活動力）の習得支援に資するキャリア教育を実施する。

(2) ユニットは、「キャリア形成支援分野」にキャリアプランニング等に関連する科目を設置し、低学年からのキャリア教育の強化・充実に努める。

### 第3 専門教育におけるキャリア教育の充実

- 1 各学部は、専門教育において以下のキャリア教育科目を設置し、実施する。
  - (1) 当該学部の専門領域と社会との繋がりについて考える機会を提供する科目
  - (2) 当該学部の専門領域と関連した実践的な科目（インターンシップ、フィールドワーク、サービスマーケティング等専門教育と関連した体験活動を主とする授業）
- 2 1で設置する授業科目は、特定のコースの学生のみが履修できるものではなく、当該学部（場合によっては学科）における学生全てに履修の機会を提供できる科目とする。

### 第4 アドバイザー教員によるキャリア形成支援の確立

各アドバイザー教員は、リフレクション面談等において、学生一人ひとりの状況や将来像に即したキャリア形成支援を実施する。

### 第5 キャリア教育実施の検証

- 1 各学部は、専門教育におけるキャリア教育科目の設置・充実、及びアドバイザー教員によるキャリア形成支援についての実施計画を作成し、年度はじめに学士課程運営委員会に提出する。
- 2 ユニットは、各学部の協力を得て、全学生に対しアンケート調査を毎年実施し、専門教育におけるキャリア教育科目の設置・充実、及びアドバイザー教員によるキャリア形成支援についての効果を測定し、その分析結果を学士課程運営委員会を通じて各学部にフィードバックする。
- 3 各学部は、2のフィードバックの内容に基づいてキャリア教育の改善・充実を図り、その方策を学士課程運営委員会に報告する。
- 4 ユニットは、各学部に対して必要に応じて助言及び支援を行う。

### 附 則

この要項は、令和2年4月1日から施行する。